

令和 5 年度 学校評価シート（自己評価）

1、園の教育目標

幼児の主体的な活動としての遊びを十分に確保し、遊びを通して様々な個性を持った人間と接していく中で、相手の存在に気づき、認め、助け合える、豊かな心を持った子どもを育てる。

全ての活動において、幼児期にふさわしい生活が展開されるように、結果にこだわり教え込むのではなく、子ども自身が自ら考え、興味や関心をもってすすんで活動出来る意欲、態度を培う。

2、具体的な目標や計画

コロナ感染症も落ち着きを見せたことで、集団での行事の制限を解き、子どもたちが思う存分活動できる環境を作る。

園児一人ひとりの個性を大切にしつつ、集団生活のルールやマナーを伝えていく。

前年度の評価に甘んじることなく、常に保育者としての向上心持ち、質の高い保育を目指す。

園児確保のため、園の保育を幅広く周知してもらう活動を検討していく。

3、評価項目の取組及び達成状況

評価項目	結果(※)	結果の理由
(1) 園行事を見直し、安全に集団活動ができる体制を整える	A	コロナの影響で人数制限をしていた保護者参加行事をコロナ前のように制限を設けないことで、子どもたちの頑張りを大勢の人に見てもらえたことは、大変良かったと思う
(2) 危機管理について教職員間で共通理解をもち、緊急事態の際に備える	B	園バス置き去りシステムを早々に導入し、安全に配慮されたと思う 園児乗車中に接触事故があった。更なる安全運転を心がけるよう指導をしっかりと行っていくことが大切
(3) 保育の質の向上を怠らず、研修や講習会に積極的に参加する	A	勤務年数に応じた内容の研修に参加することにより保育の幅を広げる努力をしている 実践できる研修を園内で主催し、教職員で共有できたことが質の向上に繋がっていると感じる
(4) 保護者のニーズを把握し、時代に沿った適正な対応をはかる	A	保護者にアンケートを取り、週 3 回の給食を週 4 回に増やしたことや、長期休業中に給食を提供することにより、働く保護者の負担をより軽減できたことは評価する

4、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結 果	理 由
A	<p>教職員が一体となって子ども一人一人と向き合っている印象は変わらずにある。子ども主体の保育は苦勞も多いが、この変わらない温かな雰囲気は精華幼稚園の良さでもあるので、子どもや保護者とのコミュニケーション（関わり・対話）を大切にしつつ、変わりゆく保育にも対応できる教員が育っていると感じる。</p> <p>園バス接触事故があったが、乗車していた園児にケガがなく安心した。また、事後の対応もしっかりと行ったが、更なる安全を確保する。</p> <p>近年の時代にあった危機管理マニュアルを改訂したことで、よりしっかりと危機管理を行っていく。</p>

○結果(※)について

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、 成果が十分でない
D	取組が不十分である

5、今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
教職員の確保及び質の向上	<p>ここ数年はHPを通じて新卒の問い合わせが多く、何とか人員は確保できているが、今後を見通し、現職の教員が結婚・子育てをしながら、無理せず仕事ができる体制や退職した教員の復職についても積極的に行っていく</p> <p>また、質の向上を図る研修等は、なるべく勤務時間内に設定・参加し、スキルアップのための講習会等には、個々が積極的に参加できる環境を整える</p>
園児の確保	<p>未就園児とその保護者に向けて、園の雰囲気や実際の保育に触れる機会を作ることによって精華幼稚園の保育の良さを感じてもらえると考え</p> <p>どのように行うかを様々な角度から考え、園が出来ることや保護者の意見も聞きながら構築していく必要がある</p>
預かり保育	<p>【プラス保育】の定員を増やすことは、それだけの需要がある。今後、4月の登園自粛期間をなるべく少なくする工夫を考えていく必要がある</p> <p>担当教員の確保もしっかり行っていく</p>
環境作り	<p>空き教室を利用し、子どもたちがゆったりと自由に使用できる『キッズ・スペース』を作り上げていきたい</p> <p>保育室のロッカーを新しくし、子どもたちが日々使いやすいようにする</p>

令和5年度 学校評価シート（学校関係者評価）

幼稚園	学校関係者評価委員会
日時	令和6年3月29日(金)
	16:00 ~ 17:00
出席者	評価委員(学識経験者) 5人
	評価委員(卒園児) 5人
	評価委員(教職員) 5人

1. 自己評価で設定した目標・計画、評価項目の設定は適切であったか

保護者のちょっとした意見に耳を傾け、年度の途中でありながら給食の回数変更のアンケートを 실시、変えていく姿勢は良かったと思う。どこまでの意見を汲み取るかの判断は難しいと思うが、保護者のニーズは時代と共に変化しているので、常にアンテナを張り情報収集を怠らない努力は評価したい。

園バスの到着時刻が日により大幅に変わってしまうための対策として、メール配信を利用したGPSシステムを活用する考えがあることは、園にとっても利用する保護者にとってもメリットがあることだと感じるので、早めに機能させるとよいのではないかと。

2. 評価結果の内容は適切であったか

概ね適切であったと思われる。

3. 今後取り組むべき課題は適切に設定されているか

次年度は園児が減る中ではあるが、正規職員を多く採用できたことで、多少の余力ができ、それを子どもたちに還元できることを期待する。

【プラス保育】希望者は、益々増えてくると予想される中で、園としてどこまで保護者の要望に応えられるかが、園児獲得の鍵になると考えられる。園の努力が必要とされる。

4. 今後取り組むべき課題は適切に行われているか

概ね適切である。

子どもを取り巻く環境がどんどん変わりつつある中で、私学の良さを発揮し、子どもたちが自己肯定感をもって、生きていく術の基本を培っていただきたい。